

第10回とやま未来創造県民会議における主な意見

(令和3年3月29日 開催)

◆全般に関すること

- 総合計画や成長戦略など他の計画との関係性を分かりやすく説明してもらいたい。
- 戦略の改訂の方向性として、施策をどんどん付け加えていくやり方は、選択と集中という観点からは望ましくない。戦略にある施策をやめることも大胆に考えてはどうか。
- 施策の進捗を単年度でなく5年間で評価する仕組みを作った方がより理解してもらえるのではないか。
- 「4つの柱」(基本目標1~4)を有機的につなぐものとして、県民幸福度などのゴールが必要ではないか。
- 今の戦略を見てもワクワクしない。見た人がワクワクするようなキャッチコピーを打ち出せばよりよい計画になるのではないか。

【基本目標1】結婚・出産・子育ての願いが叶う環境整備

- 子どもが少ないと社会の活力も失われる。合計特殊出生率の目標値が達成されるよう少子化対策を推進してほしい。

【基本目標2】産業振興、若者等の雇用創出、観光振興、県内への移住促進

- スマート農業を推進するという方針に対して、現場が追い付いておらず、行政による支援が必要。
- 「観光客の県内交通機関の満足度」を向上させるため、今後どう取り組んでいくのかを明確に示すべき。
- 移住の戦国時代で選ばれるためには、働きやすいことを訴えていくことが重要。
- 将来的なテレワークの普及を見据えて、サテライトオフィスに加えて、個人事業主の働く場として、シェアオフィス環境の整備も重要。

【基本目標 3】若者・女性・高齢者など多様な人材の確保と労働生産性の向上

- 女性活躍という点で、女性がリーダーの国（ニュージーランドなど）が新型コロナウイルス対策に成功している例を参考にして、様々な決定過程において女性の参画を進める仕組みを考えてはどうか。

【基本目標 4】活力あるまち・健やかな暮らし・未来を担う人づくり

- 食品ロス削減に関して、消費者一人ひとりが家庭から実践することが大事であり、「3015 運動」（毎月 30 日と 15 日に冷蔵庫等をチェックし食材を使いきる取組み）の意味を改めて周知する趣旨の表現を追加してほしい。
- デジタル化が進むなか、人としての感性がなくなることを心配しており、教育が果たす役割が重要である。
- ダイバーシティ、多様な価値観を認めるということをお子様の頃から教えるといった施策に地道に取り組んでいく必要がある。
- 新型コロナの影響下での芸術文化活動の普及に関して、会場に足を運べない方への配慮という点から、リアル（公演の開催）とデジタル（リモート配信など）との両輪が重要。

◆その他

- 今後も県と市町村の連携協力（ワンチームとやま）が的確に行われることが重要。
- コロナで東京一極集中の危うさを体感したが、富山県内でも一極集中があってはならない。各市町村それぞれに活気があるよう、地域間格差が出ないようにする必要がある。
- 行政の縦割りに横串を入れる（連携する取組み）をお願いしたい。
- 会議の運営方法として、少人数の分科会方式を併用するなど、メリハリをつけた方が効果が出るのではないか。